

1	日本建築史特論		選択 2単位 1 年次後期
	Advanced History of Japanese Architecture		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 中村 琢巳			
授業の達成目標			
歴史的建造物や伝統技術に関する最新のトピックスや研究成果を理解する。日本建築の様式的な変遷の知識を理解したうえで、伝統を現代に活かす設計案をつくることができる。			
授業の概要			
民家と町並み、寺院と神社、茶室、近代和風建築などに関する最新のトピックスや研究成果の講義に加えて、地域と宮城の伝統建築のフィールドワークや学生のプレゼンテーションも取り入れて進める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
授業時に資料を配布する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
プレゼンテーション発表内容で 80%、授業中のディスカッション内容を 20%で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
プレゼンテーション発表時のディスカッションにおいて全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

1	日本建築史特論	0	選択 2単位 1 年次後期
	Advanced History of Japanese Architecture		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	歴史的建造物のジャンルについて予習する。	2
第2回	町家	講義内容のノートから要点をまとめて復習をする。	2
第3回	農家	町家について予習する。	2
第4回	茶室	講義内容のノートから要点をまとめて復習をする。	2
第5回	プレゼンテーションー町家	農家について予習する。	2
第6回	プレゼンテーションー農家	講義内容のノートから要点をまとめて復習をする。	2
第7回	プレゼンテーションー茶室	茶室について予習する。	2
第8回	寺社建築	講義内容のノートから要点をまとめて復習をする。	2
第9回	城と御殿	茶室について予習する。	2
第10回	近代和風建築	講義内容のノートから要点をまとめて復習をする。	2
第11回	プレゼンテーションー寺社建築	城と御殿について予習する。	2
第12回	プレゼンテーションー城と御殿	講義内容のノートから要点をまとめて復習をする。	2
第13回	歴史的建造物の保存修復	城と御殿について予習する。	2
第14回		講義内容のノートから要点をまとめて復習をする。	2

2	建築形態論		選択 2単位 1 年次後期
	Configuration of Architecture		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	 
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 齋藤 隆太郎			
授業の達成目標			
将来、建築設計の実務に関わろうとする者が必要とする建築の計画と意匠に関する知識・理解・発想・手法を体得する。具体的には、建築・都市の空間システムの理解、その理解を基に建築・都市の課題発見と考察、建築の計画と意匠のモデル提案及び事業計画立案までを行う。本講義では特に地域特有の空間システムや事業性について住目し、その特性を明らかにした上で、建築についての具体的な計画や手法として提示することを目標とする。また全国の都市や建築の実例を学ぶことで、東北地方の特性を再認識し、上記理解を深める。			
授業の概要			
授業は、建築実務において有効かつ有用な内容とし、講義と演習の 2 段階構成とする。前半はゲスト実務者（建築家や都市計画家、研究者等）による実例に沿った授業とし、ディスカッションなど受講者との双方向構成により建築や都市の空間システムの基礎的かつ実践的な理解を深める。後半は具体的な地域空間を対象として、課題の抽出からテーマを決定し、建築・都市の計画提案を行う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
配付資料による。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
課題作品の発表内容を100%で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
実務者による講義を受け、実際のプロポーザル課題にチャレンジし、チームでプレゼンテーションをつくり上げながら、議論を深める。			
備考			

2	建築形態論	0	選択 2単位 1 年次後期
	Configuration of Architecture		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	建築形態論の概要説明、イントロダクション	予習として、各自建築基準法例集を用意し、目次を理解する。	2
第 2 回	空間の協調について（地域地区と用途地域）	復習として配布された資料を通読し、授業全体の構成を理解する。	2
第 3 回	空間の地域性について（建築基準法と地方条例）	予習として、配布資料及び示された用語について理解しておく。	2
第 4 回	ゲスト建築実務者による講義①（小規模プロジェクト）	復習として、講義で学んだ点をレポートとして提出する。	2
第 5 回	ゲスト建築実務者による講義②（中規模プロジェクト）	予習として、配布資料及び示された用語、小規模プロジェクトの事例について理解しておく。	2
第 6 回	ゲスト建築実務者による講義③（大規模プロジェクト）	復習として、講義で学んだ点をレポートとして提出する。	2
第 7 回	ゲスト建築実務者による講義④（建築と都市との関係性）	予習として、配布資料及び示された用語、大規模プロジェクトの事例について理解しておく。	2
第 8 回	ゲスト建築実務者による講義⑤（建築とコミュニティとの関係性）	復習として、講義で学んだ点をレポートとして提出する。	2
第 9 回	中間のまとめ及び対象地域の検討	予習として、配布資料及び示された用語、建築と都市との関係性について理解しておく。	2
第 10 回	地域の分析及び事業方針決定	復習として、後半課題の予備調査を行う。	2
第 11 回	建築の計画＋意匠＋事業提案①（コンセプトの策定）	予習として、具体的な地区の空間的課題を整理し、計画する建築の検討を行う。	2
第 12 回	建築の計画＋意匠＋事業提案②（配置計画を中心とした検討を行う）	復習として授業内のグループディスカッションで抽出した課題をまとめ、形に落とし込む。	2
第 13 回	建築の計画＋意匠＋事業提案③（具体的な提案）	予習として、具体的な地区の空間的課題を整理し、具体的な検討を行う。	2
第 14 回	計画のプレゼンテーション（講評）	復習として授業内のグループディスカッションで抽出した課題をまとめ、形に落とし込む。	2
		課題のプレゼンテーションについて予習する。	2
		課題のプレゼンテーションについて復習する。	2

3	建築・インテリアデザイン論		選択 2単位 1 年次後期
	Architecture and Interior Design		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 錦織 真也			
授業の達成目標			
建築設計の実務に関わる上で必要なインテリアの理論と実践について学び、インテリアと建築との関わりについて文献調査やディスカッション、実務や現場でのフィールドワークを織り交せ、多角的に理解する。 履修者は、日本と西洋のインテリアデザインの歴史を踏まえた上で、現代のインテリアデザインについて学ぶ。さらに家具、照明、ファブリック、空間認知などのインテリアに関わる諸要素について、事例研究とレクチャー、ディスカッションを通して理解を深めていく。また、現場でのフィールドワークを通して、今後の建築やインテリアの設計にあたってのデザインリテラシーを高めていくことを目指す。			
授業の概要			
建築・インテリアデザインにおける、地域的・現代的課題に視点を当てた 著書や論文を読み込むと同時に、身近なリアルフィールドでのリサーチ、課題の発見、提案とディスカッションまでを通して行うことにより、建築・インテリアの実務で必要とされる論理的思考に基づいた提案力・対話力を高めていく。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務に関わるデザインリテラシーを養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
必要に応じて資料を配布			
参考書等			
日本商空間デザイン史インテリアデザインと建築の間にヒエラルキーがあった時代から(鈴木紀慶著、商店建築社) 日本インテリアデザイン史(内田繁監修、鈴木紀慶・今村創平著、オーム社) 各建築雑誌、商店建築、コンフォルト 学部の時に読んでおいてほしい参考書: インテリアデザイン教科書(インテリアデザイン教科書研究会編著)			
成績評価方法・基準			
プレゼンテーションの内容を40%、授業でのディスカッションを30%、授業レポートの内容を30%として評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業レポートに関しては、授業時間内で、内容についてのコメントする等のフィードバックを行う。			
備考			

3	建築・インテリアデザイン論	0	選択 2単位 1 年次後期
	Architecture and Interior Design		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	建築・インテリアデザイン論ガイダンス	シラバスをよく読み、参考図書や授業内容について予習する。 ガイダンスの内容を受けて復習レポートを作成する。	2
第 2 回	現代日本のインテリアデザイン (1960年-70年代を中心に)	参考書をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 3 回	現代日本のインテリアデザイン (1980年-90年代を中心に)	参考書をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 4 回	現代日本のインテリアデザイン (2000年以降)	参考書をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 5 回	【家具とインテリア】プレゼンテーション	雑誌をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 6 回	【家具とインテリア】レクチャー・ディスカッション	雑誌をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 7 回	【照明とインテリア】プレゼンテーション	雑誌をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 8 回	【照明とインテリア】レクチャー・ディスカッション	レクチャー内容に関する雑誌をよく読んでおく。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 9 回	【ファブリックとインテリア】プレゼンテーション	雑誌をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 10 回	【ファブリックとインテリア】レクチャー・ディスカッション	レクチャー内容に関する雑誌をよく読んでおく。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 11 回	【感覚とインテリア】プレゼンテーション	雑誌をよく読みプレゼンテーションを作成する。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 12 回	【感覚とインテリア】レクチャー・ディスカッション	レクチャー内容に関する雑誌をよく読んでおく。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 13 回	インテリアの現場 家具製作の現場	授業で案内した現場について調べておく。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2
第 14 回	インテリアの現場 テキスタイル製作の現場	授業で案内した現場について調べておく。 各自前回の授業について復習レポートを作成する。	2 2

4	建築意匠特論		選択 2単位 1 年次前期
	Architectural Design Theory		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)		
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1 年全組 2 年全組 福屋 粧子			
授業の達成目標			
現代建築を牽引する建築家および建築潮流の言説・映像につき、複数の資料から解説することで、現代建築デザインの理論的基礎を習得し、建築設計へと実践的に展開できることを目標とする。			
授業の概要			
授業は各履修者による事例調査と建築理論に関する解説内容の発表をもとに進行させ、相互的なディスカッションを通して地域における実践的理解を深める。世界や国内の事例と東北各地域と仙台の事例の比較を行い、地域による建築の特徴を理解する。			
実務経験を活かした教育について			
建築設計の実務経験がある教員が行うことで、諸外国および日本の建築について解説する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
資料に記載した文献および関連文献を各自入手する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
個人発表を 80%、ディスカッションへの参加を 20%として評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出物と発表に対して、全体授業の中でフィードバックを行う。			
備考			

4	建築意匠特論	0	選択 2単位 1 年次前期
	Architectural Design Theory		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	現代建築と建築理論 建築理論の実践的展開に関する解説	現代建築の背景となる社会の動きを調べて予習をする。	2
		講義で記録したノートや配布したプリントで復習をする。	2
第2回	履修者別担当建築家の選定	現代建築の建築家の活動年代を調べて予習をする。	2
		講義で記録したノートや配布したプリントで復習をする。	2
第3回	モデル発表とプレリサーチコメント	発表を行う建築家等の活動の概略について予習を行う。	2
		モデル発表・プレリサーチの構成を分析し、今後の発表に向けて復習をする。	2
第4回	海外の建築家（1970 年代まで）	配布資料を予習する。	2
		演習内容のキーワードを復習する。	2
第5回	海外の建築家 北ヨーロッパ	配布資料を予習する。	2
		講義のキーワードを復習する。	2
第6回	海外の建築家 南ヨーロッパ	予習として、発表に向けた資料作成を行う。	2
		発表の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2
第7回	海外の建築家 アジア	予習として、発表に向けた資料作成を行う。	2
		発表の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2
第8回	海外の建築家 アメリカ	予習として、発表に向けた資料作成を行う。	2
		発表の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2
第9回	日本の建築家 明治・大正	予習として、発表に向けた資料作成を行う。	2
		発表の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2
第10回	日本の建築家 昭和前期	予習として、発表に向けた資料作成を行う。	2
		発表の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2
第11回	日本の建築家 昭和中期	予習として、発表に向けた資料作成を行う。	2
		発表の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2
第12回	日本の建築家 昭和後期・平成	配布資料を予習する。	2
		地域事例についてまとめ、講義のキーワードを復習する。	2
第13回	まとめ	これまでの発表をまとめた資料を予習として制作する。	2
		発表全体の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2
第14回	再発表とまとめ	これまでの発表をまとめた資料を予習として制作する。	2
		発表全体の内容・構成を分析し、コメントを記録して、キーワードを復習する。	2

5	地域環境計画		選択 2単位 1 年次前期
	Planning of Regional Environment		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 不破 正仁			
授業の達成目標			
これからの都市・地域計画に求められる「地域固有であること」「持続的であること」などの諸点について、地域資源の再評価のプロセスを理解する。また、伝統的な居住環境の形成過程およびそのデザインパターンを学ぶことを通して、都市・地域を見る目と実社会における計画に応用する能力を養う。			
授業の概要			
都市における居住環境を対象とし、その形成過程から、地域資源の再評価のプロセスを整理する。その上で、農山漁村地域における土着・風土的な（伝統的な）居住空間からそのデザインパターンを学び、地域固有の持続的な仕組みを持つ保全型地域計画の可能性を議論する。また、身近な地域にでかけ、当該地域の状況について発表（プレゼン）を通して共有することで、より多くの地域と宮城の現状を理解する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 特になし			
参考書等			
参考書 「図説 集落」 日本建築学会編 都市文化社「集住の知恵 美しく住むかたち」 日本建築学会編 技報堂出版「図説 民俗建築大事典」 日本民俗建築学会編 柏書房そのほか、授業中に適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
授業中の課題レポートおよびプレゼンテーション・討論の内容 60%、まとめのレポート 40%により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各レポート、プレゼンテーションについてフィードバックを行う。			
備考			

5	地域環境計画	0	選択 2単位 1 年次前期
	Planning of Regional Environment		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	地域資源の捉え方	予習：ここに示した参考図書のうちひとつは手に取り、目にしておくこと。 復習：配付資料に記載されている用語について参考図書と照らし合せながら理解を深めること。	2
第2回	都市と農村の関係・都市の拡がりとその現状	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第3回	地域固有の居住環境の形成過程	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第4回	居住環境の固有性とその展開	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第5回	仙台市内の都市縁辺部の巡検	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第6回	地形と集落立地 集村／散村（散居）	予習：巡検予定地の文献資料調査 復習：巡検レポートの作成	2 2
第7回	居住環境と自然 里山／屋敷林1／棚田／石垣	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第8回	居住環境と社会 結（ゆい）／農村舞台／鎮守の森	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第9回	居住環境と信仰 氏神／稲荷／水神／地蔵	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第10回	住居と生活・生業 屋敷林2／くら・なや・こや	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第11回	住居と住居集合の知恵 こみせ／うだつ／垣根	キーワードの予習 配付資料に記載されている用語・各図についての復習	2 2
第12回	地域資源としての伝統的居住環境の保全	キーワードの予習・各自プレゼンの準備 プレゼン紹介事例についての整理	2 2
第13回	保全型地域計画の展開	キーワードの予習・各自プレゼンの準備 プレゼン紹介事例についての整理	2 2
第14回	レポート提出とディスカッション	キーワードの予習・各自プレゼンの準備 プレゼン紹介事例についての整理	2 2

6	施設計画特論		選択 2単位 1 年次後期
	Architectural Planning of Facilities		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独 (1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け (クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 石井 敏			
授業の達成目標			
建築実務と建築計画的視点から特に地域生活を支える施設の計画のあり方、考え方について、施設計画の背景にある地域、社会、文化、制度との関わりをふまえて理解する。また、実際に仙台・宮城にある地域施設での見学、そこでのレクチャーも交えながら、施設計画の具体や実践について理解する。人間 - 環境系の視点からの計画アプローチについても理解し、幅広い視点から施設の計画ができるようになることを目指す。			
授業の概要			
福祉施設や公共施設をテーマとして、建築実務及び計画的視点からの計画手法と計画要点の整理を行う。計画・設計の際の拠り所となる理論の発掘の重要性を学ぶ。施設を成立させる地域の状況や諸要素の把握と、複合的な視点からの計画アプローチ手法の知識と理論を習得する。施設現地での講義・フィールドワークを通して、自らの考えや疑問を直接、設計者や運営者に質問するなど双方向でのコミュニケーションとディスカッションを通して、施設計画の理解を深める。			
実務経験を活かした教育について			
実際に仙台、宮城にある地域施設を訪問し、地域に密着する施設計画のあり方やその運営の実際を、設計実務の経験豊かな講師からレクチャーを受ける実践的講義もある。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書	特になし 適宜プリント配布		
参考書等			
参考書	建築地理学 新しい建築計画の試み 長澤泰ほか、東京大学出版会		
成績評価方法・基準			
授業中の質疑応答 (50%) および課題レポート (50%) により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題レポートは後日返却・フィードバックする。			
備考			

6	施設計画特論		0	選択 2単位 1 年次後期
	Architectural Planning of Facilities			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第 1 回	建築実務における建築計画と施設計画	予習では学部における建築計画と地域施設計画の内容を理解する。	2	
		授業配付のプリントを復習。	2	
第 2 回	建築実務における利用者視点の施設計画	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 3 回	実務での設計プレゼンテーション	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 4 回	宮城にある生涯学習センター・図書館の施設計画の実際と実践	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 5 回	介護施設計画の実際と実践	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 6 回	仙台・宮城にある地域支援複合施設の事例研究	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 7 回	仙台・宮城にある地域支援複合施設の事例研究（現地見学）	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 8 回	仙台・宮城にある高齢者施設の事例研究	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 9 回	仙台・宮城にある高齢者施設の事例研究（現地見学）	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 10 回	認知症を支える地域と施設づくりの計画と実務的視点	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 11 回	当事者視点のユニバーサルデザインと実務的視点	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 12 回	仙台・宮城にあるこども園の事例研究	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 13 回	仙台・宮城にあるこども園の事例研究（現地見学）	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	
第 14 回	実務での設計プロポーザルの仕組みと実際	予習では事前配付のプリントの内容を理解する。	2	
		復習では授業で記録したノートを整理し再確認。	2	

7	住宅計画特論		選択 2単位 1 年次前期
	Advanced Planning of Housing		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 新井 信幸			
授業の達成目標			
実例資料の解説、実例見学等を通して、以下を達成目標とする。 1) 住宅計画に関わる時代ごとの住要求及び問題点の変遷を整理して把握する能力の習得 2) 住要求への対応及び問題点の解決のために技術者として身につけるべき計画立案能力の涵養 3) 住要求及び問題点の時代的変遷を踏まえた今後の住宅計画のあり方を展望する能力の涵養			
授業の概要			
我が国（仙台市内含む）の集合住宅計画事例を詳細に検討し、都市住居および住環境がどのように変容したのか、その要因を分析する。また、これまでの住宅計画が蓄積してきた技術、達成できたもの、残された課題を事例見学等の実習を通して明らかにし、これからの都市住宅計画のあり方を考える。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 1 「日本における集合住宅計画の変遷」高田光雄 他著 日本放送出版協会教科書 2 最新の建築雑誌のコピー			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中のレポートおよび質疑 70%、課題レポート 30%を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各レポートについては、授業中にフィードバックを行う。			
備考			

7 住宅計画特論		0	選択 2単位 1 年次前期
Advanced Planning of Housing			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	講義の内容と進め方、住宅計画の実社会における展開についての解説（オリエンテーション）	事前に配布された資料で予習する。	2
第2回	現代日本の都市住居の形態	事前に配布された資料で予習する。	2
第3回	同潤会アパートが果たした役割	事前に配布された資料で予習する。	2
第4回	晴海高層アパートの特徴とその成果	事前に配布された資料で予習する。	2
第5回	マンションの出現とその変遷	事前に配布された資料で予習する。	2
第6回	広島基町高層住宅が果たした役割	事前に配布された資料で予習する。	2
第7回	水戸六番池団地と公営住宅団地計画	事前に配布された資料で予習する。	2
第8回	地方都市における集合住宅計画の特質	事前に配布された資料で予習する。	2
第9回	コーポラティブ住宅の特質	事前に配布された資料で予習する。	2
第10回	街区型集合住宅計画とは	事前に配布された資料で予習する。	2
第11回	環境と共生する住まいづくり	事前に配布された資料で予習する。	2
第12回	集合住宅事例見学会（仙台市内）	事前に配布された資料で予習する。	2
第13回	集合住宅事例見学会（仙台市外）	事前に配布された資料で予習する。	2
第14回	地域性、時代性をふまえた事例研究発表とまとめ	予習として事例研究の発表資料を作成する。	2
		ノート、プリントを復習する。	2

8	環境心理行動学特論		選択 2単位 1 年次前期
	Special Course of Environment-Behavior Studies		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 大石 洋之			
授業の達成目標			
建築・都市空間における人間の心理・行動面の特性を理解することで、建築意匠設計、ならびに、建築環境の計画において、必要な知識と技術を習得し、実務に展開できることを目標とする。			
授業の概要			
建築・都市空間における人間の心理・行動面の特性を環境心理行動学における基礎理論に基づいて解説し、日常生活の中での体験に置き換えての理解を目指す。具体的には、建築・都市空間を中心とした対象について、認知・評価・行動の側面から、既往の研究で明らかにされている現象や考え方について講義する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は鉄道系の建築設計事務所において、鉄道駅利用者の施設評価に関する業務に携わった。その経験を活かして、建築・都市空間における利用者視点での空間の在り方について意識的に教育し、人間の心理・行動面の特性を理解したうえで環境創造のできる人材の育成を目指す			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
関連書籍、関係学会の情報に関する資料、研究論文などを含め、講義の折に適宜紹介する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績評価方法：各回講義への参加意欲 50%、各回の課題 50%により総合評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各回の課題については講義内で解説を行う。			
備考			

8	環境心理行動学特論	0	選択 2単位 1 年次前期
	Special Course of Environment-Behavior Studies		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンスおよび建築・都市空間の構築における本講義の位置づけと展開についての解説	予習として学部時代の科目を振り返り、建築・都市空間と人間心理や行動とのかかわりを考える。 復習として講義内容と自分の修士研究との関係性について考察する	2
第 2 回	環境心理行動学の沿革と発展	環境心理行動学の成り立ちについて予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 3 回	環境の知覚	予習として講義内容に意識を向けること。 環境の知覚に関する理論を予習する	2 2
第 4 回	光・視環境に対する心理	建築空間の光に関する内容を予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 5 回	音環境に対する心理	建築空間の音に関する内容を予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 6 回	熱・空気環境に対する心理	建築空間の熱・空気に関する内容を予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 7 回	環境認知（経路探索、記憶、想起）	環境認知について予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 8 回	場所愛着	場所愛着の理論について予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 9 回	認知・評価における個人差、文化差	評価における個人差に関する理論を予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 10 回	人間－空間に関する理論（対人距離、など）	人間環境学の理論を文献等で調べる 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 11 回	環境と安全	環境と安全の関係性について予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 12 回	心理評価手法	心理的評価の方法論について予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 13 回	心理・生理データの分析手法	心理・生理データを扱ううえでの注意事項について予習する 復習として講義内容をレポートにまとめる	2 2
第 14 回	まとめと課題発表	課題発表のための準備を行う 復習として全回の講義内容を振り返り、講義の感想をレポートにまとめる	2 2

9	建築設備学特論		選択 2単位 1 年次後期
	Special Course on Building Services Engineering		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 許 雷			
授業の達成目標			
建築設備設計に関わる基礎的事項に基づいて、建物におけるエネルギー消費量の計算、自然エネルギーの利用、環境評価方法を学び、設備設計一級建築士として必要な知識と技術を習得することを目標とする。			
授業の概要			
建築設備における環境省エネルギー技術の理論、応用動向を含め、具体的な事例の紹介を通じて講義する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：関係学会の情報に関する資料、研究論文などを含め、講義の折に適宜紹介する。			
参考書等			
参考書：必要に応じて紹介する。			
成績評価方法・基準			
成績評価方法：適宜出題するレポート 50%、課題発表 50%で総合評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート・課題は授業中に全体に対してフィードバックする。			
備考			

9	建築設備学特論	0	選択 2単位 1 年次後期
	Special Course on Building Services Engineering		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンスと建物におけるエネルギー消費	建築設備システム及び同演習(学部履修科目)の内容を再確認し予習する。 建物におけるエネルギー消費の状況を再確認し復習する。	2
第2回	年間空調負荷の計算	最大熱負荷計算の方法を再確認し予習する。 年間空調負荷の仕組みの理解を深め復習する。	2
第3回	アクティブ空調システムの省エネ対策	空調システムの構成を再確認し予習する。 熱源機器、補助機器エネルギー消費量の計算、省エネ対策の理解を深め復習する。	2
第4回	空調負荷の削減と自然エネルギーの利用	室内環境の作り方を再確認し予習する。 地域風土と自然エネルギー利用の関係性を調べ復習する。	2
第5回	ガラス建築の省エネ対策	ガラス建築の事例を調べ予習する。 ガラス建築の省エネルギー対策の理解を深め復習する。	2
第6回	新エネルギーの利用	国内における新エネルギー利用の現状を調べ予習する。 建物意匠計画と新エネルギーの利用の事例を調査し復習する。	2
第7回	地域エネルギーシステムの計画	空調設備の熱源機器の構成を再確認し予習する。 地域冷暖房システムの実施条件の理解を深め、地域冷暖房の事例を調査し復習する。	2
第8回	都市インフラストラクチャーの整備	東日本大震災におけるライフラインの被災状況を再確認し予習する。 非常時におけるインフラ施設の設計事例を調べ復習する。	2
第9回	建築設備における流体シミュレーション	建築設計における流体解析の応用現状を調べ予習する。 FDSシミュレーションソフトの練習に取り組み復習する。	2
第10回	BIM技術の基礎	BIM(建築情報モデリング)の仕組み、応用について調べ予習する。 IFC仕様への理解を深め、BIM情報の活用状況を調べ復習する。	2
第11回	BIM技術におけるデータ連携及び演習-意匠設計	建築設計におけるBIMデータ連携の現状について調べ予習する。 BIMソフト(ArchicADまたはRevit)操作及びBIMデータの作成について復習する。	2
第12回	BIM技術におけるデータ連携及び演習-設備設計	設備設計におけるBIMデータ連携の現状について調べ予習する。 BIMソフト(Revit)操作及びBIMデータの作成について復習する。	2
第13回	BIM技術におけるデータ連携及び演習-IFCデータの作成と応用	IFCデータの応用現状を調べ予習する。 IFCデータの作成と応用を調べ復習する。	2
第14回	まとめと課題発表	これまで学んだ部分を予めまとめておく。 課題発表・議論の結果などを復習する。	2

10	気候風土と地域・都市特論		選択 2単位 1 年次前期
	Special Course of Region and City in Climate		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 渡邊 浩文			
授業の達成目標			
安全で快適そして低炭素排出の地域・都市を気候風土および環境工学の視点から考えるための、概念と理論そして実社会との関わりについて理解を深める。			
授業の概要			
講義の対象は建築単体に留まらず、建築外部空間・街区・都市およびその周辺地域をも含み、地理学・気候学等、学 際的な内容となる。講義では、仙台をはじめとする各地域の研究や取り組みの状況を、具体的事例として多く取り上げる予定である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
「都市環境学」都市環境学教材編集委員会編、森北出版 研究論文および最新の学術誌、その他の配布資料			
成績評価方法・基準			
授業中の質疑 (10%) および各回課題レポート (90%) の配分にて、合計 60 点以上の得点で合格とするにより評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各回課題レポートは次回の講義にてフィードバックする。			
備考			

10	気候風土と地域・都市特論	0	選択 2単位 1 年次前期
	Special Course of Region and City in Climate		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンスおよび実社会における本講義の位置づけと展開についての解説	予習として学部時代の環境系科目の振り返り。	2
第 2 回	気圏の概要	復習として学部時代の自身の卒業論文・設計における環境配慮について考察。 予習として講義内容に意識を向けること。	2
第 3 回	大気汚染と地域・都市	予習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 4 回	脱炭素社会と地域・都市	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 5 回	水圏の概要	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 6 回	水汚染と地域・都市	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 7 回	地圏の概要	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 8 回	土壌汚染・資源循環と地域・都市	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 9 回	生態系保全と地域	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 10 回	地域景観の保全と創造	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 11 回	都市のインフラ・ストラクチャー	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 12 回	気候風土と地域のデザイン	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 13 回	気候風土と住まいのデザイン	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2
第 14 回	環境共生のための生活デザイン（生活様式）・総括	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をレ ポートにまとめること。	2

11	建築防災計画特論		選択 2単位 1 年次前期
	Disaster Prevention Planning in Built Environment		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 鍵屋 浩司			
授業の達成目標			
建築や都市で発生した災害の教訓とその防災対策の手法について、主に建築火災の観点から、それらがどのように建築計画や都市計画に反映されてきたかを理解するとともに、建築や都市の防災計画の手法を習得する。			

11	建築防災計画特論		0	選択 2単位 1 年次前期
	Disaster Prevention Planning in Built Environment			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)	
第1回	建築防災計画とは	本講義の趣旨と建築防災計画の考え方について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第2回	火災の歴史と法令	火災の歴史とそれを教訓に整備された法令について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第3回	燃焼現象と火災	火災における可燃物の燃焼現象とそのしくみについて事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第4回	内外装の火災安全	内外装の燃焼と防火基準の内装制限や防火地域について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第5回	区画火災と火災性状	火災の成長と区画火災性状の工学的予測方法について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第6回	煙の流動と防排煙設計	火災事例に基づく煙流動の実態とその制御方法について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第7回	災害時の避難行動と避難計画	避難行動と避難計画の考え方、避難安全検証法について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第8回	自力避難困難者の避難安全	高齢者や障がい者等が利用する施設の避難安全について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第9回	消防活動と消防設備	消防による消火・救助活動の実態や消防設備について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第10回	歴史的建造物・既存不適格建築物の火災安全	歴史的建造物等の法適合しない建築物の実態について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第11回	津波火災の実態と対策	東日本大震災で経験した津波火災の実態と対策について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第12回	耐火構造と耐火設計	耐火構造と耐火設計および耐火性能検証法について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第13回	中高層木造建築物の耐火設計	我が国や欧米の中高層木造建築物の耐火設計について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	
第14回	建築防災計画の考え方	建築や都市の防災計画について事前配付資料で予習する。 復習では講義の内容を各自で整理して理解を深める。	2	

12	建築ライフサイクルマネジメント		選択 2単位 1 年次前期
	Building Lifecycle Management		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	 
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 有川 智			
授業の達成目標			
建築生産システムの社会的側面と建築物のライフサイクルに関わる基礎知識を習得するとともに、建築マネジメント技術の体系と手法について習得する。			
授業の概要			
建築生産活動のプロセス全体を通して、その社会的・経済的・技術的課題について解説し、基礎的事項とそれらの関連を理解した上で、最新の動向を踏まえながら建築マネジメントにおいて必要となる知識と理論及び実務への展開を学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
建築生産 松村秀一編著 市ヶ谷出版社 2010			
成績評価方法・基準			
演習、課題レポート 60%、課題発表 40%により総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
演習、課題については授業中全体に対してフィードバックを行なう。			
備考			

12	建築ライフサイクルマネジメント	0	選択 2単位 1 年次前期
	Building Lifecycle Management		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	建築生産の現状	建築にかかわる社会的事象についてメディアの情報を収集し、関連事項を予習する。 公的な統計情報に基づいて授業内容を確認、復習する。	2
第 2 回	生産行為としての建築プロジェクト	建築プロジェクトの具体例を収集し、予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 3 回	建築生産と産業構造ー住宅	住宅産業に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 4 回	建築生産と産業構造ー一般建築	建設産業に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 5 回	建築の生産プロセス	生産工程に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 6 回	建築生産に関わる主体の責任と役割	発注者や設計、施工に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 7 回	建築生産の発注と契約	発注・入札・契約に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 8 回	建築生産のコスト管理	建築積算に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 9 回	建築の維持管理ー維持保全	建物の維持管理に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 10 回	建築の維持管理ーコンバージョン	建物のコンバージョンに関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 11 回	建築の解体と資源循環	建設リサイクル法に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 12 回	建築生産と行政	建築行政に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 13 回	建築マネジメントの新たな動向	CM、FM などのマネジメント技術に関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第 14 回	建築のライフサイクルマネジメント	建物のストックマネジメントに関する基礎事項について予習する。 配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2

13	コンクリート材料特論		選択 2単位 1 年次後期
	Advanced Concrete Material		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 菊田 貴恒			
授業の達成目標			
過去から現在におけるコンクリート技術の変遷を理解すると共に、破壊力学的視点に基づくコンクリート材料の各種性能とその評価手法を習得する。また、コンクリートに発生するひび割れとそれによって引き起こされる性能の変質を理解し、さらなる高付加価値なセメント系材料の設計手法を習得する。			
授業の概要			
セメント系材料の最先端技術の例を学ぶと共に、長寿命化、高強度化、高靱性化などのさらなる付加価値を有する新しい高性能コンクリート材料の創生を実現する材料設計手法について、講義ならびに実験等を行い実践的に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 三橋博三著「コンクリートのひび割れと破壊の力学」(技報堂出版)【ISBN : 978-4-7655-1769-0】			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小課題 30%と課題発表 70%の評価合計 60 点以上の得点で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小課題については提出後、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

13	コンクリート材料特論	0	選択 2単位 1 年次後期
	Advanced Concrete Material		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	国内外にける高性能コンクリートに関する実例	国内外の有名な RC 構造物などについて予習する。	2
		配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第2回	コンクリートに関わる技術的変遷	明治時代から現在に至るまでのコンクリート技術の変遷について予習する。	2
		配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第3回	セメント系材料の環境負荷と LCC	コンクリート構造物の LCC について予習する。	2
		配布資料等に基づいてセメント系材料の環境負荷特性を復習する。	2
第4回	コンクリートの力学性能評価手法	構造物の設計時に必要とされるコンクリートの力学的性能について整理しておく。	2
		配布資料等に基づいてコンクリートの力学性能評価手法を復習する。	2
第5回	コンクリートのひび割れと破壊	身のまわりのコンクリート材料に生じているひび割れを予習する。	2
		配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第6回	コンクリートの材料構造と破壊現象	セメントの化学組成等を予習する。	2
		配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第7回	コンクリートの破壊力学の基礎	一般的なひび割れ先端の応力拡大係数などについて予習する。	2
		配布資料等に基づいて授業内容を復習する。	2
第8回	コンクリートの軟化特性の評価法とモデル化	数値解析モデル等に適用されるコンクリートの材料モデルを予習する。	2
		配布資料等に基づいてコンクリートの軟化特性の評価法について復習する。	2
第9回	コンクリートのひび割れ強度の寸法効果	一般材料における各寸法効果を予習する。	2
		配布資料等に基づいてコンクリートのひび割れ強度の寸法効果について復習する。	2
第10回	繊維補強セメント系複合材料の破壊	繊維補強複合材料の力学的性能について予習する。	2
		配布資料等に基づいて繊維補強複合材料の力学的性能について復習する。	2
第11回	コンクリートの材料設計手法とその性能評価	コンクリート材料の基礎的な調査方法について予習する。	2
		配布資料等に基づいてコンクリート材料の基礎的な調査方法について復習する。	2
第12回	高性能コンクリート材料の調査設計と試験体作製	コンクリート材料の各種性能評価手法を予習する。	2
		配布資料等に基づいて高性能コンクリート材料の調査設計について復習する。	2
第13回	高性能コンクリート材料の破壊実験とその性能評価	破壊状況と力学的性能の関係性を調べて予習する。	2
		高性能コンクリート材料の破壊実験の結果をまとめその性能の特徴について復習する。	2
第14回	まとめと課題発表	実験結果に関する考察を既往の文献等を用いて論ずる準備しておくこと。	2
		将来の RC 構造や材料計画のあり方について復習する。	2

14	複合構造学		選択 2単位 1 年次後期
	Hybrid Structure		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 曹 森			
授業の達成目標			
建築分野における複合構造の発展の経緯と各種の複合構造について、実例を通して理解する。			
授業の概要			
複数の材料を組み合わせてできた合成構造と、異種部材を連結して作られた混合構造との双方について、開発経緯、材料特性、構造検討法などを学ぶ授業。具体的な実例を取り上げ、文献調査、課題発表、グループディスカッション等の形式で講義を行う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築士として、建築構造設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において構造設計に係わる実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 特になし			
参考書等			
参考書 ①「コンクリート充填鋼管構造－CFI 構造の性能と設計」／オーム社②「鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレース」／鹿島出版会③「鋼・木質ハイブリッド構造の設計施工技術資料」／日本鋼構造協会			
成績評価方法・基準			
課題発表 (50%) 及び最終発表 (50%) で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
発表内容に対して、グループディスカッション等によりフィードバックする。			
備考			

14	複合構造学	0	選択 2単位 1 年次後期
	Hybrid Structure		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	複合構造の概要とその実用性についての解説	複合構造とその事例について予習する。	2
		複合構造とその事例について復習する。	2
第 2 回	建築分野における複合構造	講義テーマの構造形式と事例について予習する。	2
		講義テーマの構造形式と事例について復習する。	2
第 3 回	コンクリートの性質	材料の特性について予習する。	2
		材料の特性について復習する。	2
第 4 回	鉄筋と鋼材の性質	材料の特性について予習する。	2
		材料の特性について復習する。	2
第 5 回	コンクリートと鋼材の複合性能	複合材料の特性について予習する。	2
		複合材料の特性について復習する。	2
第 6 回	合成梁の構造	合成梁構造の特性と成立条件について予習する。	2
		合成梁構造の特性と成立条件について復習する。	2
第 7 回	合成床の構造	合成床構造の特性と成立条件について予習する。	2
		合成床構造の特性と成立条件について復習する。	2
第 8 回	合成耐震要素の概要	合成耐震要素の特性について予習する。	2
		合成耐震要素の特性について復習する。	2
第 9 回	架構としての複合構造	講義テーマの構造形式と事例について予習する。	2
		講義テーマの構造形式と事例について復習する。	2
第 10 回	柱 RC 梁 S 複合構造の概要	講義テーマの構造形式と事例について予習する。	2
		講義テーマの構造形式と事例について復習する。	2
第 11 回	柱 RC 梁 S 複合構造の性能	講義テーマの構造形式の構造性能について予習する。	2
		講義テーマの構造形式の構造性能について復習する。	2
第 12 回	柱 RC 梁 S 複合構造の応力解析	講義テーマの構造形式の構造性能について予習する。	2
		講義テーマの構造形式の構造性能について復習する。	2
第 13 回	複合構造の応力伝達メカニズム	複合構造の応力伝達機構と構造性能について予習する。	2
		複合構造の応力伝達機構と構造性能について復習する。	2
第 14 回	木質系の複合構造	講義テーマの構造形式と事例と構造詳細について予習する。	2
		講義テーマの構造形式と事例と構造詳細について復習する。	2

15	振動学Ⅰ		選択 2単位 1 年次前期
	Vibration of Structures Ⅰ		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 薛 松濤			
授業の達成目標			
構造物の振動の基本原理を理解し、地震応答スペクトル・フーリエ変換などを把握、その実践的応用について修得する。			
授業の概要			
1 質点系の非減衰および減衰自由振動を基に、正弦波地動による強制加振の場合の応答について講義し、建物の固有振動ならびに共振応答の特性について解説する。また、地震応答解析手法についても講義し、応答スペクトル・フーリエ変換の意味するところを理解させる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「最新 耐震構造解析」 柴田明徳著 森北出版研究論文および学術誌等のコピー			
参考書等			
成績評価方法・基準			
課題レポート (100%) によって成績評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートは後日フィードバックを行う。			
備考			

15	振動学Ⅰ	0	選択 2単位 1 年次前期
	Vibration of Structures Ⅰ		
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)		学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	建物の地震応答の基本	地震の特徴について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 2 回	構造物のモデル化及び振動方程式	構造物の振動について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 3 回	固有振動数と減衰定数	固有振動数について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 4 回	バネ係数の算出	バネについて予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 5 回	自由振動、非減衰	自由振動について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 6 回	自由振動、減衰	減衰について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 7 回	調和外力による強制振動	調和外力について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 8 回	多様な外力による振動	様々な力について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 9 回	減衰定数	減衰原因について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 10 回	地震応答スペクトル	スペクトルについて予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 11 回	震度とベースシア係数	震度について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 12 回	フーリエ級数	フーリエ級数について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 13 回	フーリエ変換	フーリエ変換について予習する。 今回の授業を復習する。	2
第 14 回	地震応答解析	地震応答解析法を予習する。 今回の授業を復習する。	2

16	振動学Ⅱ		選択 2単位 1 年次後期
	Vibration of Structures II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 堀 則男			
授業の達成目標			
地震に対する構造物の動的挙動を理解し、耐震設計・耐震診断の実務に適用するための基礎として、1 質点系及び多自由度系の振動、波形分析についての基本的事項を把握し、実践できることを目指す。			
授業の概要			
まずは 1 質点系を対象として、その振動特性、地震応答性状を解説し、地震応答の数値計算プログラムを作成する。さらにこれをベースとして、多自由度系の振動特性、地震応答性状を解説し、模型を用いた振動特性の把握、数値計算プログラムの作成などを行う。また、地震動の振動特性を把握するための波形分析について講義する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
最新 耐震構造解析 第3版・補訂版 柴田明徳 森北出版 2021 新・地震動のスペクトル解析入門 大崎順彦 鹿島出版会 1994			
成績評価方法・基準			
授業中に実施する演習課題を 50%、まとめの課題レポートを 50%で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出された課題については次回以降の授業時に返却し、全体に対して解説を行う。			
備考			

16	振動学Ⅱ	0	選択 2単位 1 年次後期
	Vibration of Structures II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	1 質点系の運動	「振動学Ⅰ」の振動方程式、固有振動に関する部分を再確認して予習する。 1 質点系の運動、固有周期の算定について整理して復習する。	2
第 2 回	1 質点系の地震応答と応答スペクトル	「振動学Ⅰ」の減衰自由振動、地震応答スペクトルに関する部分を再確認して予習する。 地震応答の数値計算プログラムを完成させて復習する。	2
第 3 回	多自由度系の運動	数学における行列演算について再確認して予習する。 多自由度系の運動、固有周期について整理して復習する。	2
第 4 回	多自由度系の振動特性把握実験	固有モード、固有周期の算定法を確認して予習する。 実験結果を整理して復習する。	2
第 5 回	多自由度系の固有値算定法	応答加速度、作用地震力、層せん断力、層間変形の関係を確認して予習する。 固有値算定プログラムを完成させて復習する。	2
第 6 回	多自由度系の減衰振動	非減衰自由振動の固有モードの算定法を確認して予習する。 減衰マトリクスの作成について整理し、各次の減衰定数を算定して復習する。	2
第 7 回	多自由度系の地震応答	減衰自由振動の応答の算定法を確認して予習する。 地震応答について整理し、刺激関数を算定して復習する。	2
第 8 回	多自由度系のモーダルアナリシス	1 質点系の地震応答について再確認して予習する。 各種の方法で応答最大値を算定して復習する。	2
第 9 回	多自由度 1 質点系の回転振動とねじれ振動	1 質点系の振動方程式、固有値算定について再確認して予習する。 回転振動の固有周期、固有モードなどを実際に算定して復習する。	2
第 10 回	振動波形の成分分析	「振動学Ⅰ」のフーリエ級数に関する部分を再確認して予習する。 フーリエ係数について整理し、実際に算定を行って復習する。	2
第 11 回	フーリエ解析の基本	「振動学Ⅰ」のフーリエ級数に関する部分を再確認して予習する。 フーリエ振幅、フーリエ位相について整理し、実際に算定を行って復習する。	2
第 12 回	複素フーリエ解析、高速フーリエ変換	数学における複素数について再確認して予習する。 高速フーリエ変換の数値計算ツールを使用してみて復習する。	2
第 13 回	フーリエ解析の利用	フーリエ変換の計算法について確認して予習する。 地震動記録について、実際にフーリエ振幅スペクトルを算定して復習する。	2
第 14 回	振動波形のフィルター処理とまとめ	多自由度系の地震応答について再確認して予習する。 フーリエ変換、フーリエ逆変換について整理して復習する。	2

17	制振構造論		選択 2単位 1 年次前期
Researches on Structural Vibration Control			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 船木 尚己 畑中 友			
授業の達成目標			
免震・制振技術の原理と特長についての知識を理解し、建築構造物の振動制御について正しく考え、実践的に応用することができるようになる。			
授業の概要			
地震や風に対して建物の損傷を制御し、機能維持を可能にする免震・制振構造の原理について論じるとともに、これらの技術による建築構造の可能性について考察する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
適宜、講義資料を配布する。			
参考書等			
耐震・免震・制震のわかる本、清水建設免制震研究会、1999			
成績評価方法・基準			
演習、課題レポート 60%、課題発表 40%により総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

17	制振構造論	0	選択 2単位 1 年次前期
Researches on Structural Vibration Control			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	地震と地震動	歴史地震と地震動の特性について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 2 回	建物の基本的な振動特性と地震による揺れ	建物の構造種別と振動応答特性について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 3 回	免震構造の原理	免震構造の種類や特徴について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 4 回	免震構造の歴史	免震構造の歴史について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 5 回	免震建物の振動応答特性	免震構造の振動特性について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 6 回	免震部材の特性	建物に用いられている免震部材の種類とそれらの特徴について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 7 回	免震建物の設計	免震構造の設計手順について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 8 回	免震建物の施工	免震建物の施工法について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 9 回	最新の免震技術の実例	近年の免震技術について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 10 回	制振構造の原理	制振構造の種類や特徴について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 11 回	制振構造の歴史・分類	制振構造の歴史や種類、それらの特徴について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 12 回	制振構造の振動応答特性 (パッシブ制振・アクティブ制振)	パッシブとアクティブ制振システムを有する建物の振動応答特性について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 13 回	制振構造の設計と最新技術の実例	制振構造の設計手順について予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	これまで学んできた内容について予習する。 これまで学んできた内容について不確実な部分を復習する。	2

18	建築環境設備設計	選択 2単位 1 年次後期	
	Planning and Design of Building Environment and Facilities		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)		
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1 年全組 田原 誠			
授業の達成目標			
環境設備設計に関わる基礎的事項に基づき、住宅・建築の環境設備設計を行うにあたってのそれらの具体化方法や、新技術の適用、ライフサイクル評価など、単なる負荷計算に留まらずこれからの設備設計一級建築士として必要な知識と技術を習得することを目標とする。			
授業の概要			
環境工学、環境設計における理論の実プロジェクト等における展開状況や、環境設備設計実務、建築設計との関わり、経済的・社会的側面との関連性について、所属している業界・企業・組織での具体的事例を題材に講義する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、セネコン設計部で設備設計に携わるエンジニアとして、企業における設計実務に従事している実績と経験を活かし、最近の事例や動向を具体例を紹介しながらディスカッションし、建築設計・構造設計・設備設計など環境設計に関連する設計に携わる実務の知識と対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
特になし（適宜プリント配布、又はPPTや動画等を投影して進める）。			
参考書等			
参考書 空気調和・衛生工学会編：空気調和設備計画設計の実務の知識、オーム社空気調和・衛生工学会編：給排水・衛生設備計画設計の実務の知識、オーム社空気調和・衛生工学会編：空気調和・衛生工学便覧、丸善			
成績評価方法・基準			
授業への取り組み姿勢（質疑応答）等(50%)、中間及び最後のレポート（50%）により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
中間レポートは授業中に全体でフィードバック予定。最終レポートは第14回全体のまとめ講義内で発表し、ディスカッションを行う。			
備考			

18	建築環境設備設計	0	選択 2単位 1 年次後期
	Planning and Design of Building Environment and Facilities		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・建築環境設備設計の業務の流れ	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第2回	気候風土の把握と設計上の留意点	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第3回	機械設備（空調・給排水）設計の概要	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第4回	電気設備設計の概要	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第5回	建物用途と設備計画（1）【事務施設】	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第6回	建物用途と設備計画（2）【宿泊施設】	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第7回	環境設計（環境配慮建築計画）の概要	参考図書より建築作品をピックアップしてレポートにまとめる。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第8回	建築における省資源・省エネルギー	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第9回	新エネルギー・新技術の動向	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第10回	イニシャルコストとランニングコスト	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第11回	環境性能評価とコミッションング	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第12回	建築におけるライフサイクルマネジメント	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第13回	建物・作業所見学	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2
第14回	全体のまとめ	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2

19	建築構造設計		選択 2単位 1 年次前期
	Design of Architectural Structure		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 井上 剛志			
授業の達成目標			
免震・制振構造建物など、多様化・高度化する構造システムを、最近の事例を通して学ぶと同時に、構造設計の一連の過程と実務の要点を学ぶ。また、確認申請等実務設計の中での構造設計の位置づけ、意匠設計および設備設計とのかかわりについて学ぶ。インターンシップ受講にあたって習得すべき実務設計の基本的知識と考え方を身に付ける。			
授業の概要			
講義内容は、実務設計の中での構造設計の位置づけや、意匠設計および設備設計とのかかわり等、構造設計を行なう上で必要となる基本的な知識の修得を目的とする部分と、コンピュータによる構造解析に関する応用的知識を身に付ける部分とで構成される。実務経験者による指導の下、具体的に構造種別毎に構造設計を行い、地震に対する安全性を理解する。また、地元（宮城県・仙台市）に建つ建物について事例をあげ、設計・施工から竣工までのプロセスを理解する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員が、長年にわたって構造設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
適宜、講義資料を配布する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
演習課題の内容（100％）で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については授業中に全体に対してフィードバックする。			
備考			

19	建築構造設計	0	選択 2単位 1 年次前期
	Design of Architectural Structure		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	構造設計と法制度との関係	構造設計と法制度について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 2 回	意匠設計・設備設計との関連性	意匠設計・設備設計との関連性について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 3 回	建築構造技術の変遷	建築構造技術の変遷について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 4 回	設計用荷重について	設計用荷重の種類について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 5 回	水平・鉛直荷重に対する応力計算	水平・鉛直荷重に対する応力計算の手順について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 6 回	部材の設計 1（梁・柱・スラブ）	梁・柱・スラブの設計手順について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 7 回	部材の設計 2（耐震壁・基礎）	耐震壁・基礎の設計手順について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 8 回	保有耐力と変形性能	保有耐力と変形性能について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 9 回	構造解析法と構造設計	構造解析法と構造設計について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 10 回	構造解析プログラムの基礎	構造解析プログラムの使用法について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 11 回	免震構造の原理と最新技術	免震構造の原理と最新技術について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 12 回	免震構造の設計	免震構造の設計手順について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 13 回	制振構造の原理と最新技術	制振構造の原理と最新技術について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 14 回	制振構造の設計と耐震補強の技術・耐震診断法の概要	制振構造の設計手順と耐震補強の技術・耐震診断法の概要について予習する。 参考書・配布資料などの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2

20	建築設計実務演習		選択 2単位 2 年次前期
	Practical Exercise in Architectural Designing		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 齋藤 和哉			
授業の達成目標			
具体的なテーマ設定による計画・設計方法の習得。計画・環境・構造・法規各分野からの実務的見地を踏まえた上での設計図書の作成とプレゼンテーション技術の習得。インターンシップや関連科目で学んだ実務知識や経験をベースにし、実現可能な建築設計図書の完成を目指す。			
授業の概要			
本設計演習では、建築の必要性、実現可能性の調査・検討から建築案件の設定を経て、具体的な建築を想定し、図面・仕様書などの設計図書としてまとめる。具体的には、集合住宅地・都市再開発などの地域計画、および公共施設・商業施設などの複合的施設の企画・設計テーマを自ら設定することから始める。敷地や地域環境の調査分析を前提とし、実務設計に対応した建築計画・意匠・構造・設備・法規等も考慮した総合的な建築的基礎知識・技術が発揮できる内容をプログラムに沿って進める。中間発表、最終プレゼンテーションを通してプレゼンテーション能力も養う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計に係わる実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
特になし 適宜必要に応じて参考資料等を配布			
参考書等			
成績評価方法・基準			
最終成果物の提出と中間発表（40%）および最終プレゼンテーション（60%）をもって評価し、60 点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題レポートは後日返却・フィードバックする。			
備考			

20	建築設計実務演習	0	選択 2単位 2 年次前期
	Practical Exercise in Architectural Designing		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	テーマ設定と妥当性の検討・社会的要求水準の把握・関連法規の確認	予習はシラバスの内容を確認理解する。	1
第 2 回	対象市域の調査・周辺環境の評価	予習は提出された課題内容の整理と理解。	1
第 3 回	地域域の歴史・人口動態・都市機能・上位計画の確認	予習は次週エスキスに向けた作業。	1
第 4 回	類似施設の分析	復習はエスキスを踏まえて与えられた課題の整理と作業。	1
第 5 回	配置の検討（周辺交通・アプローチ・外部空間・将来計画など）	予習は次週エスキスに向けた作業。	1
第 6 回	規模算定と空間構成・諸活動の分析	復習はエスキスを踏まえて与えられた課題の整理と作業。	1
第 7 回	室空間のつながり	予習は次週エスキスに向けた作業。	1
第 8 回	モデルによるボリュームと形態の検討	復習はエスキスを踏まえて与えられた課題の整理と作業。	1
第 9 回	基本方針の妥当性（中間発表）	予習は次週エスキスに向けた作業。	1
第 10 回	形態の追求・断面の検討	復習は中間発表を踏まえて与えられた課題の整理と作業。	1
第 11 回	エコロジカルとサステナブルの検討	予習は次週エスキスに向けた作業。	1
第 12 回	構造方式の検討（耐震計画）	復習はエスキスを踏まえて与えられた課題の整理と作業。	1
第 13 回	設備計画（空調計画）	予習は次週エスキスに向けた作業。	1
第 14 回	プレゼンテーションと設計図書の提出（講評）	復習はエスキスを踏まえて与えられた課題の整理と作業。	1
		予習は課題提出とプレゼンテーションに向けた作業。	1
		復習はプレゼンテーションと講評を踏まえての修正。	1

21	建築環境設備実務演習		選択 2単位 2 年次前期
	Practical Exercise in Architectural Equipment		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 許 雷 渡邊 浩文 大石 洋之 鍵屋 浩司			
授業の達成目標			
環境設備計画・設計に必要な様々な技術(計測・解析・計算・予測など)を演習と実習・実験等を通じて習得し、今後の環境設備分野の実務設計に欠かせない技術を学ぶ。またインターンシップでの実践を活かしながら、さらに環境設備設計の業務を行う上で必要最低限必要となる知識と技能を身に付ける。			
授業の概要			
建築環境設備分野の実務に必要な計算・予測・判断・製図・測定・解析等の各種技術を実習を通じて学ぶ。また今後の環境設備設計に必要な最新技術の基礎および応用についても実習を通じて学ぶ。なお本科目は履修学生のインターンシップの受講状況等により課題とする項目とその時間数に若干の配慮を行う予定である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
特になし 適宜必要に応じて参考資料等を配布			
参考書等			
成績評価方法・基準			
演習課題(100%)により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は授業中に個別にフィードバックする。			
備考			

21	建築環境設備実務演習	0	選択 2単位 2 年次前期
	Practical Exercise in Architectural Equipment		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 2 回	空調負荷計算とその分析 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 3 回	給排水負荷計算とその分析 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 4 回	機器容量決定と運転指針の策定 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 5 回	空調設備製図 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 6 回	衛生設備製図 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 7 回	環境計測と温熱快適指標の算出 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 8 回	環境モニタリングとデータマイニング (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 9 回	省エネルギーシステムの設計・計算 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 10 回	B I M の基礎 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 11 回	B I M の応用 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 12 回	建築設備耐震の点検・診断 (実習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 13 回	ライフラインと地域システム実習 (実習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2
第 14 回	G I S の基礎 (演習)	予習として講義内容に意識を向けること。 復習として講義内容をまとめておくこと。	2 2

22	建築構造実務演習		選択 2単位 2 年次前期
	Practical Exercise in Architectural Structure		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 薛 松濤 船木 尚己 堀 則男 有川 智 畑中 友 曹 森			
授業の達成目標			
関連法規に適合するような構造設計実務に即した課題を用いて、構造解析・耐震診断の手法を演習から学ぶ。あわせて、建築実務に必要なとなる構造・材料にかかわる知識と技術、建築施工技术を、材料実験・振動実験および現場実習によって習得する。インターンシップで得た実践的知識をさらに補強・応用するための演習・実験科目である。			
授業の概要			
①構造設計と法制度との関連についての演習課題を通して、構造設計の基本的知識を学ぶ。②実際の建物を例題に挙げ、最新の構造システムおよび施工技术について学ぶ。③構造解析に用いるプログラムの利用技術について、実践的な演習によって理解を深める。④建築生産技術として必要な工程解析手法について、実験を通して実践的に理解する。⑤施工現場見学を通して建築が具現化される過程を体験する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
特になし。適宜必要に応じて参考資料等を配布。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
演習課題の内容 (100%) で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出物は、後日返却、フィードバックする。			
備考			

22	建築構造実務演習	0	選択 2単位 2 年次前期
	Practical Exercise in Architectural Structure		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	構造解析プログラムの概要	構造解析を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第2回	構造解析プログラムによる計算演習（RC 造・S 造）	プログラミングを予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第3回	構造解析プログラムによる計算演習（免震・制振構造）	構造解析法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第4回	構造実験（概要説明）	構造実験法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第5回	構造実験（建物模型の設計）	構造実験法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第6回	構造実験（建物模型の製作）	模型製作法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第7回	構造実験（自由振動・地震波加振実験）	自由振動を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第8回	構造実験（実験結果の解析）	解析法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第9回	生産工学実験（プロローグ）	生産工学の意義を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第10回	生産工学実験（工程解析用データの収集）	データ収集について予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第11回	生産工学実験（データのまとめと現状把握）	データまとめ法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第12回	生産工学実験（データの解析）	データ解析法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第13回	生産工学実験（改善計画の立案と実践）	改善計画法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1
第14回	生産工学実験（結果の解釈とまとめ）	解析法を予習する。	1
		今回の授業を復習する。	1

23	大学院の英語 I		選択 2単位 前期
	English Communication I (Graduate Course)		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
全 クック サイモン			
授業の達成目標			
Students will learn the skills which will enable them to use English with confidence. Full participation in this class will reward the student with confidence in English to help them succeed in a world in which being able to use English is highly regarded. Students will be expected to work with other students in the class, creating a collaborative environment for all class attendees.			
授業の概要			
The course will focus on speaking and listening but will include activities which use all four English skills. English vocabulary and tips to improve oral communication will be presented in an engaging way. Each week, students will be required to actively participate in a variety of both group-based activities and self-assessment tasks. Final presentations will be based on student interpretations of SDGs.			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
Dictogloss in Action (Gold) 著者: Adrian Leis, Simon Cooke ISBN: 978-4-9913907-0-8 ¥3,850 Stelpa Books			
参考書等			
成績評価方法・基準			
Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester test and a presentation. Weekly word tests-10% Presentation 2-10% Speaking test-30% Transcription exercises-20% Final presentation-30%			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.			
備考			

23	大学院の英語 I		0	選択 2単位 前期
	English Communication I (Graduate Course)			
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回	Course introduction & orientation. Stage 1-1 of textbook.	Purchase of textbook and preparation for first class	2	
第2回	Stage 1-2 of textbook. Note taking while listening #1. Conversation tips #1.	The importance of speaking English and creating a collaborative environment. Student self-introduction in the form of their first presentation. Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 1.	2	
第3回	Stage 1-3 of textbook. Looking at useful language and vocabulary used in a presentation. Note taking while listening #2. Introduction to shadowing. Conversation tips #2.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 2.	2	
第4回	Stage 1-4 of textbook. Looking at useful language and vocabulary in a presentation 2. Note taking while listening #3. Conversation tips #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test. Transcription exercise 3.	2	
第5回	Stage 1-5 of textbook. Preparing for your first presentation - choosing a topic. Orally summarizing	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion and collaboration. Weekly presentation in front of group. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 4.	2	
第6回	Stage 2-1 of textbook. Making a good impression 1. Looking at posture and eye-contact. Orally summarizing	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion and collaboration. Vocabulary test and language exercises. Students watch and learn from other's presentations. Transcription exercise 5.	2	
第7回	Stage 2-2 of textbook. Looking again at posture and eye contact. Idiomatic language #1. Giving and receiving	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Feedback from/to peers. Transcription exercise 6.	2	
第8回	Stage 2-3 of textbook. Making a good impression 2a. Using gestures 1. Idiomatic language #2. Conversation tips #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Giving presentation with gestures. Transcription exercise 7.	2	
第9回	Stage 2-4 of textbook. Making a good impression 2b. Idiomatic language #3. Conversation tips #2.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Preparation for 2nd presentation. Transcription exercise 8.	2	
第10回	Stage 2-5 of textbook. Making your point 1a. Interrogatives & stating opinions #1. Conversation tips #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Students watch & learn from other's presentations. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 9.	2	
第11回	Stage 3-1 of textbook. Making your point 1b. Signposting (transition phrases and sequencers). Interrogatives & stating opinions #1. Conversation tips #10.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Feedback from/to peers. Final presentation topics. Transcription exercise 10.	2	
第12回	Stage 3-2 of textbook. Making your point 2a and 2b. Interrogatives & stating opinions #1. Conversation tips #11.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook. Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. More examples of good presentations.	2	
第13回	Final presentation and Speaking test.	Final presentation and Speaking test.	2	
第14回	Check of understanding of materials covered during the semester.	Revision of topics and themes covered in the semester.	2	
		Keeping up with English studies.	4	
			0	

24	大学院の英語 II		選択 2単位 後期
	English Communication II (Graduate Course)		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
全 クック サイモン			
授業の達成目標			
As with the first semester, this semester aims to inspire students to work hard at improving their English skills, enabling them to use English with confidence. Full participation in this class will reward the student with confidence in English to help them succeed in a world in which being able to use English is highly regarded. Students will be expected to work with other students in the class, creating a collaborative environment for all class attendees.			
授業の概要			
As in the first semester, the course will focus on speaking and listening but will include activities which use all four English skills. English vocabulary and tips to improve oral communication will be presented in an engaging way. Each week, students will be required to actively participate in a variety of both group-based activities and self assessment tasks. As with the first semester, final presentations will be based on student interpretations of SDGs.			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
Dictogloss in Action (Gold) 著者: Adrian Leis, Simon Cooke ISBN: 978-4-9913907-0-8 ¥3,850 StelpA Books			
参考書等			
成績評価方法・基準			
Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester test and a presentation. Weekly word tests-10% Presentation 2-10% Speaking test-30% Transcription exercises-20% Final presentation-30%			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.			
備考			

24	大学院の英語 II		0	選択 2単位 後期
	English Communication II (Graduate Course)			
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回	Introduction to the course. Look at the introduction and Stage 4-1. Preparation for vocabulary test	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		The importance of speaking English and creating a collaborative environment. Student self-introduction in the form of their first presentation.	2	
第2回	Stage 4-2 of textbook. Looking at presentation vocabulary. Indirect language #1. Classroom language	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 1.	2	
第3回	Stage 4-3 of textbook. Looking at using your voice and intonation when speaking. Indirect language #2	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 2.	2	
第4回	Stage 4-4 of textbook. Looking at sentence stress in a presentation. Indirect language #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 3.	2	
第5回	Stage 4-5 of textbook. Looking at using graphs in a presentation #1. Tone of voice #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 4.	2	
第6回	Stage 5-1 of textbook. Looking at using graphs in a presentation #2. Tone of voice #2.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 5.	2	
第7回	Stage 5-2 of textbook. Using and reporting figures in a presentation #1 Tone of voice #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises Transcription exercise 6.	2	
第8回	Stage 5-3 of textbook. Using and reporting figures in a presentation #2 Fluency & pronunciation #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Preparation for final presentation. Transcription exercise 7.	2	
第9回	Stage 5-4 of textbook. Concluding your message. Fluency & pronunciation #2.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 8.	2	
第10回	Stage 5-5 of textbook. Taking questions #1. Fluency & pronunciation #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Preparation for final presentation. Transcription exercise 9.	2	
第11回	Stage 6-1 of textbook. Taking questions #2. Discussion Strategies #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 10.	2	
第12回	Stage 6-2 of textbook. Overview of all sections of the presentation. Discussion Strategies #2. Preparation for final presentation.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2	
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises.	2	
第13回	Final presentation and Speaking test.	Final presentation and Speaking test.	2	
		Revision of topics and themes covered in the semester.	2	
第14回	Check of understanding of materials covered during the semester.	Keeping up with English studies.	4	
			0	